

「サービス管理責任者研修」 <事例1>

事例概要

< 分野名 > 介護

< 所属機関の種別名 > 施設A 施設入所支援+生活介護
(旧法知的障害者入所更生施設)

<親の高齢化により、在宅生活の継続が困難となり施設入所に至った利用者を支援する事例>
～サービス管理責任者の仕事の役割・流儀を考える～

1 支援の概要

K市に住所を置き、S市にある知的障害者の入所施設を利用。知的障害・52歳・療育手帳B2・障害支援区分3。身長167cm・体重65Kg。平成24年4月、知的障害者入所更生施設Aが開設(定員60名)。本人の問題行動(特に女性に対するストーカー的行為)と母も高齢となり養育が難しくなってきたという理由で施設入所に至っている。法人の事業は、入所更生施設Aの他、同一敷地内にて生活介護事業所B、相談支援事業所C、徒歩圏内に生活介護事業所D、相談支援事業所E、車で30分程離れた場所に共同生活介護事業所Fがある。

施設入所してから6年が経過。入所してから数年は「何故、自分がここにいるのか?」という不満から、暴言、暴力行為もみられていたが、月に1回の帰宅を単独で行ってもらうこと、週に2回の母への電話、下請受注作業の活動への参加をしてもらうことで、入所施設での生活に不満はもっているものの、落ち着いて生活することができるようになってきている。

実父は他界。母も高齢であり、病気も患っていることから、今後の本人の生活について施設Aのサビ管に母から相談がある。

2 プロフィール

(1) 氏名、性別 Iさん 男性

(2) 年齢(生年月): 52歳 昭和40年〇月〇日生

(3) 生育歴(出生後の経過、学歴、職歴等)

満期正常分娩により、昭和40年K市で出生。就学前に発達の遅れが認められていたが、小学校は普通級を卒業。勉強についていけなかったこともあり、中学校からは特殊級に入学。卒業後、高等学校(夜間)に入学するが、勉強にもついていけず、クラスメイトからのいじめもあり、高校1年で中退。その後、民間企業に就職するが、仕事についていけずに3ヶ月で退社。その後も数十社に勤務するが、1週間から長くても1ヶ月で退社と定着することはできなかった。就職活動については、単独でハローワークに行き、就職活動をしていたという。以降、地域作業所、通所授産施設等を通所利用したが、こちらも対人関係のトラブルや施設に対する不満等で通所しなくなり、在宅での生活を送っていた。平成20年11月に問題行動(通りすがりの異性に対するストーカー的行為)が顕著となり、精神科を受診し、精神科薬の服薬を開始。平成20年4月、S市に新規入所施設の開設に伴い、施設入所となった。本人は施設入所を拒否していたが、保護者・CWが説得した形であった。入所後、1年間は母の希望もあり、夏季・年末年始の帰宅のみであったが、本人の不安定さが増し、単独での公共交通機関の利用も可能ということもあったため、月1回程度の帰宅をしている。

(4) 障害について(発病または受傷時の状況、治療経過、現状等)

(障害名) 知的障害・療育手帳B2・障害支援区分3

精神科薬を服用しているが、医師所見では服薬の必要性は低いとのこと。本人の薬への拘りが強いということもあり、最小量が処方されている。

横隔膜のけいれん(しゃっくりが止まらない)が入所以前からあり、当初は精神科薬の副作用とも考えられていたが、副作用止めでは効果なく、昨年より他県にある内科病院にかかり、服薬治療を開始し、改善が見られてきている。

(5) 家族状況(続柄、年齢、職業、協力関係等)

(父)昭和50年に他界。

(母)79才。Iさんの自宅での主な支援者である。一昨年、病気を患い、定期的に検査受診、時には検査入院をされている。

(妹)47才。既婚。母とは別居し、遠方の他県に在住。以前はIさんとの関わりに拒否的であったが、母が亡くなった後のことを考えてくれるようになり、成年後見人になってもらってよかったというが、今後の協力範囲には限界がある。

(6) 経済状況(利用者及び世帯の収入状況等)

障害基礎年金2級。

(7) 利用しているサービス等と生活サイクル

施設入所支援を利用し、日中は生産活動としての下請受注作業の活動に参加。

不定期ではあるが、母と相談しながら、帰宅日を決め、概ね月1回の帰宅を行っている。

自宅では母と会話をする時間も少なく、帰宅中の余暇は、ひとりで新宿、渋谷、日比谷、台場等まで映画に行ったり、好きな歌手のライブに行ったりしている。

3 支援の経過

(1) 相談とアセスメント

① 相談受付～母からの相談～

平成20年10月に病気を患い、パートとして勤めいた会社を退職。息子も平成20年4月から施設入所し6年が経過するが、帰宅時に施設生活への不満が絶えず、かといって在宅での生活も難しいため、今後の本人の生活について施設Aのサビ管に母から相談がある。

② アセスメントの概要～詳細はアセスメント資料を参照～

<これからに向けた本人の意向>

Iさんは、できれば自宅で生活したいが、高齢であるため難しいと母に言われたことを本人なりに理解をし、K市内のグループホームに住み、一般就労をしたいと思っており、今まで自分で仕事を探してきたが、失敗の連続であったため、就労にむけて手伝いをしてくれるところを見つけたいと思っている。また、友達をたくさんつくりたいとが、どのようにしたらよいかわからなかったり、日常生活上、困ってしまうこともたくさんあると思うため、生活全般に渡って手伝いをしてくれるところを見つけたいと思っている。

<日常生活面>

ADLについては、概ね自立している。

髭剃りは剃り残しがあるため、確認と声かけが必要である。

入浴を嫌がる傾向があり、声かけが必要である。入所当初は、断固拒否し粗暴行為に至ることもあったが、最近では文句を言いながらも声かけを受け入れるようになってきている。

<健康面(医療)>

横隔膜のけいれん(しゃっくりが止まらない)が入所以前からあり、当初は精神科薬の副作用とも考えられていたが、副作用止めでは効果なく、昨年より他県にある内科病院にかかり、服薬治療を開始し、改善が見られてきている。

本人は、健康面を必要以上に固執してしまう傾向がある。例えば、冬の時期の入浴は湯冷めして風邪をひいてしまう・KT37.0となると風邪をひいているから病院に通院したい・吹き出ものができる際には皮膚科に通院したい等の要求が頻繁となってしまう。施設入所以前は、単独で通院してしまい、母が気づいた時には、複数の病院から相当な量の服薬処方されていることもあったという。

<教育・就労>

日中活動では、生産活動としての下請受注の作業に参加し、自動車部品の組み立てやお菓子の箱詰め・タグの取り付け等の作業を行っている(AM1.5時間・PM1.5時間)。工賃が少ないことに対する不満もあるようだが、仕事に対する文句を言ったり、私語も多く、手先が不器用なこともあるが、うまくできなくなってくると、トイレに何度も行き、逃避行動してしまうことも多かった。本人に地域移行に向けての取り組みを考えていることを伝えてからは、減少傾向にあるものの、職業前訓練の必要性は高いのが現状である。

<コミュニケーション>

ことばによるコミュニケーションが可能である。他利用者との関係性の中では、理解力が高いこともあり、他者のふとした一言に対して、怒り出し、粗暴行為が見られる場面もしばしば見受けられるが、入所当初に比べると、職員の仲介により、落ち着きを取り戻すことができるようになってきている。

<社会参加・移動>

月1回の帰宅の際には、単独で公共交通機関を利用し自宅まで帰っている。帰宅中の余暇は、ひとりで新宿・渋谷・日比谷・台場等まで映画を見に行ったり、好きな歌手のライブに出かけたりしている。

<家庭の状況・養育について>

母も高齢で病気を患ってしまっているが、本人のことを非常に心配しており、月1回の帰宅の受け入れ、横隔膜のけいれんに関する定期通院(他県の内科病院)の同行をしてくれている。

結婚して遠方の他県に在住している妹がいるが、数年前までは、本人との接触も嫌がり、顔をあわせることもほとんどなかったが、母が病気を患ったことをきっかけに、将来、本人の成年後見人をやってもよいと言われるようになったという。

<経済状況・金銭管理>

障害基礎年金2級を受給。金銭の管理については、本人は持っているものを全て使ってしまうため、施設が行っている。現在は年金の範囲内で十分生活することができている。また、母は本人の将来のために子どもの頃から積み立てをしてくれている。

<特記事項>

女性に対する興味・関心があり、施設入所以前には、数回、警察沙汰になっており、通りすがりの女性に対するストーカー的行為(つきまとい)やセクハラ行為(身体を触る、スカートをめくろうとする)も見られていたが、施設入所後は、女性職員に興味を持っているが、そのような行為はない。女性職員に対して、時に過度に接触している場面もあるが、声かけで修正可能である。反面、女性の衣類に興味が出てきており、帰宅時に古着屋で女性のスカートを購入したり、自宅で母の下着やスカートを着衣する行為もみられている。

1・調査実施者(記入者)

実施日	平成20年8月△○日		
記入者氏名	〇〇××	所属機関	施設A

2・調査対象者

対象者氏名	I.さん	(男)女)	生年月日	昭和40年○月○日生
現住所	K県K市			

3・障害者手帳等級及び程度区分等

障害種別	知的障害	等級及び程度区分	障害区分3	療育手帳B2
------	------	----------	-------	--------

1・生育歴に関する状況

(生育歴)

満期正常分娩により、昭和40年K市で出生。就学前に発達の遅れが認められていたが、小学校は普通級を卒業。勉強についていけなかったこともあり、中学校からは特殊級に入学。卒業後、高等学校(夜間)に入学するが、勉強にもついていけず、クラスメイトからのいじめもあり、高校1年で中退。その後、民間企業に就職するが、仕事についていけずに3ヶ月で退社。その後も数十社を経験するが、1週間から長くても1ヶ月で退社と定着することはできなかった。就職活動については、単独でハローワークに行き、就職活動をしていたという。以降、通所授産施設、地域作業所等を通所利用したが、こちらも対人関係のトラブルや施設に対する不満等で通所しなくなり、在宅での生活を送っていた。平成20年11月に問題行動(通りすがりの異性に対するストーカー的の行為)が顕著となり、精神科を受診し、精神科薬の服薬を開始。平成20年4月、S市に新規入所施設の開設に伴い、施設入所となった。

在胎期	期間	10ヶ月	異常	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
	特記事項				
出生時	異常	有 <input checked="" type="radio"/> 無	特記事項		
乳幼児期	始歩	1才6ヶ月	特記事項		
	発語	2才0ヶ月	特記事項		
	その他特記	就学前に発達の遅れの指摘を受けている。			
幼児期以降の保育園・学校・施設等の利用履歴	年月～年月	学校等利用機関名	特記事項		
	昭和40年～昭和50年	K市立K小学校	普通級		
	昭和50年～昭和50年	K市立K中学校	特殊級		
	昭和50年～昭和50年	K県立K高等学校(夜間)	高等学校1年で中退		
	昭和60年～昭和60年	K市内 F法人M通所授産施設	他利用者とのトラブルや施設への不満から通所しなくなり、1年で退所		
	昭和60年～平成10年	K市内 地域作業所			

2・健康状態などその他特記事項

(健康・医療) □身長167cm。体重65kg
 □横隔膜のけいれん(しゃっくりが止まらない)が入所以前からあり、当初は精神科薬の副作用とも考えられていたが、副作用止めでは効果なく、昨年より他県にある内科病院にかかり、服薬治療を開始し、改善が見られてきている。
 □健康面での配慮：健康面を必要以上に固執してしまう傾向がある。例えば、冬の時期の入浴は湯冷めして風邪をひいてしまう・KT37.0となると風邪をひいているから病院に通院したい・吹き出もののができた際には皮膚科に通院したい等の要求が頻繁となってしまう。施設入所以前は、単独で通院してしまい、母が気づいた時には、複数の病院から相当な量の服薬処方されていることもあったという。
 □食べ物の嗜好:ハンバーグ・ラーメン

3・家族状況

氏名	続柄	特記事項
I・A	実父	昭和50年に他界。
I・M	実母	79才。I.さんの自宅での主な支援者である。一昨年、病気を患い、定期的に検査受診、時には検査入院をされている。
I・H	本人	52歳。
T・T	実妹	47歳。結婚し、遠方の他県に在住。以前は、本人との関わりに拒否的であったが、母の病気をきっかけに、将来、成年後見人になってほしいと言ってくれている。
T・Y	義弟	50歳。義兄のことは、特に関心がない。身内の妻に全て任せている。

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査1】

領域	項目	支援項目	支援度					緊急性の有無	特記事項		
			1・支援なし	2・見守り・声掛け支援	3・一部間接支援	4・一部直接支援	5・全支援				
1	生活基盤	1 経済状況					○	障害基礎年金2級			
		2 住宅環境					○	施設入所中			
2	健康管理	1 服薬管理				○		必要以上に服薬してしまうことがある。			
		2 通院				○		施設入所中のため、単独での通院はないが、在宅生活中は、必要以上に通院し、薬をもらってきてしまい、服薬してしまうことがあった。			
		3 発作対応	○								
3	日常生活動作	1 食事摂取		○				施設内での食事については、支援なしであるが、外食時には、好きなだけ食べてしまうことがあるため、声かけは必要である。			
		2 排尿		○				排泄後の身嗜みの整容については、声かけが必要である。			
		3 排便		○							
		4 歩行	○								
		5 移乗	○								
		6 入浴・洗体		○							
		7 入浴・洗髪		○				風邪をひくからといい、入浴をしたがらない。声かけ等で促すと暴言・暴力に至ることもある。			
		8 洗顔		○							
		9 衣類着脱		○				身嗜みの整容が不十分であり声かけが必要である。			
		10 履物着脱	○								
		11 歯磨き		○				面倒くさがり、声かけをしないとやらないことがある。			
4	衛生	1 清潔保持		○				排泄後の手洗い、食事前の手洗い、洗面等、全般にわたり声かけが必要である。			
		2 整容		○				寝癖や身嗜みの整容については、声かけが必要である。			
		3 爪切り				○		深爪になってしまうことがある。			
		4 掃除		○				面倒くさがり、声かけをしないとやらないことがある。			
5	家事	1 洗濯		○							
		2 調理				○		帰宅した際には、カップラーメンやレトルトの食品で食事をする事ができている。			
		3 その他 育児等						非該当			
6	社会生活	1 日常の意思決定		○				わかりやすく話をすることで、意思決定ができている。			
		2 金銭管理	○					小遣いの範囲内で自分で買物等ができ、残金を考えながら計画をたてることも可能である。			
		3 財産管理				○		小遣い以外は、母が年金等を管理している			
		4 買物(選択)	○								
		5 金銭支払	○								
		6 地元の地理等の理解	○								
		7 交通機関の利用	○								
		8 電話の利用	○								
		9 持物管理	○								
		10 予定等の計画	○								
7	活動交流	1 意思疎通	○								
		2 対人関係		○				職員・母と限られた人との関係である。			
		3 外出活動	○					単独での外出が可能である。			
		4 余暇活動	○					好きな歌手のライブや映画鑑賞が主である。			
		5 近隣との付き合い					○	全くない。			
		6 就労					○	就労経験があるが、定着できず。就労に対する意欲がある。			
8	安全管理	1 火気管理					○				
		2 戸締り					○				
9	その他	1 緊急時対応					○				
		2 家族関係	○								
支援項目			ない	時々ある	ある	支援項目			ない	時々ある	ある
10	問題行動	1 ひどい物忘れ	○			12	支援者の関わりへの抵抗		○		
		2 周りのことに興味	○			13	目的もなく動き回る	○			
		3 物を盗まれた・叩かれたなど被害的になることが	○			14	自傷行為	○			
		4 現実でない話を作話する	○			15	他者に対して暴力行為を行う	○			
		5 幻覚や幻聴	○			16	周囲が困惑する性的行動	○			
		6 泣いたり笑ったり情緒が不安定	○			17	一人で外に出ていくなど目が離せない	○			
		7 同じ話をしたり不快な音			○	18	大声を出す・大泣きするなど著しい騒がしさ	○			
		8 他人のもの金品の盗む等	○			19	物や衣類を壊す行為	○			
		9 いろいろ集めたり無断で持ってくるものが	○			20	故意と思われる尿・便失禁することが	○			
		10 昼夜逆転・睡眠の乱れ	○			21	不潔な行為(便をなすりつける等)	○			
		11 周囲が予測できない急な飛び出し	○			22	食べられないものを口に入れることの状態	○			

【利用者の生活・行動等に関するアセスメント調査2】

				利用者氏名	さん
7・1 意思疎通の方法について	項目	内容	チェック (○・×)	特 記	
	意思伝達	話し言葉意思伝達です	○		
		サインやカードで伝達する	非該当		
		身振り手振りで伝達する	非該当		
		動くことによって伝達する	非該当		
		実物を示して伝達する	非該当		
		その他	非該当		
	理解について	時間の概念	○		
		毎日の日課	○		
		生年月日や年齢を答える	○		
		自分の名前を答える	○		
		自分の名前を書く	○		
		自分の今いる場所を答える	○		
		自分の住所	○		
相手の言葉の理解	理解できる	○			
	ところどころ理解する	非該当			
	会話・言葉が通じない	非該当			
読字について	漢字・カタカナ・ひらがな・数字・理解できない				
7・2 余暇・趣味	項目	内容	チェック (○・×)	特 記	
		趣味など楽しみにしていること	○	好きな歌手のライブに行くこと。映画鑑賞をすること。	
		現在参加しているレクリエーション	×		
		現在楽しみにしている外出先	○	新宿、渋谷、日比谷、台場 等	
		現在参加している当事者団体活動もしくは各種社会的活動	×		
		傾聴ボランティアなどの関わり	×		
	その他				
9・家族状況特記事項	主たる介護・援助者の状況	主たる介護者である母は高齢であり、一昨年には病気を患い、定期的に検査受診、時には検査入院をされているが、本人のことを非常に心配しており、月1回の帰宅の受け入れ、横隔膜のけいれんに関する定期通院（他県の内科病院）の同行をしてくれている。実妹は遠方の他県に在住しており、以前は本人との関わりに拒否的であったが、母の病気をきっかけに、将来、成年後見人になってもよいと言ってくれている。			
	介護・援助上の問題点	母は、高齢ということもあるが、病気を患い、本人の介護に負担感を感じている。本人はできれば在宅での生活を望んではいるが、母の現状を本人なりに理解し、「自宅で母と一緒に暮らしたいが、それは無理といわれているから仕方ない。」「グループホームで生活をし、就職してお金を稼ごう。」と思いはじめてきている。			
	家族関係および障害の理解	母・妹は本人の障害状況を理解し、支援を行っている。			
10・行動面での特記事項	性格情緒面	他者の面倒を見たり、職員の手伝いをしてくれたり優しい面もあるが、気になること（先の見通しがつかないこと。例えば、郵便物がいつ届くのか？（何ヶ月も先の）外出の日に風邪をひいてしまったらどうすればよいのか？等）があると不安になり、イライラしてしまうこともある。固執性・粘着気質の傾向あり。			
	こだわり等	先の見通しがわからないものは、今すぐに確認したい。病気になることが心配で、薬へのこだわりが強い。			
	パニック等	特になし。			
本人・家族の意向	○ 母は、高齢、病気により、在宅での養育が難しいと思っている。 ○ 本人は、できれば自宅で生活したいが、高齢であるため難しいと母に言われたことを本人なりに理解をし、K市内のグループホームに住み、一般就労をしたいと考えており、今まで自分で仕事を探してきたが、失敗の連続であったため、就労にむけて手伝いをしてくれるところを見つけたいと思っている。また、友達をたくさんつくりたいが、どのようにしたらよいかわからなかったり、日常生活上、困ってしまうこともたくさんあると思うため、生活全般に渡って手伝いをしてくれるところを見つけたいと思っている				
担当者の所見	○ 入所当初は、笑顔もなく、常に怒っており、施設入所を受け入れることができなかったが、母の状況も本人なりに理解し、在宅での生活が困難であることを認識してきている。生活の場所については、できれば自宅でという思いは強いもののグループホームでの生活を考えられるようになってきており、就労への意欲もでてきているため、本人の意向を実現させてあげたい。				